

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木克宗

事業名 一般国道 349号 梁川バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 福島県
起終点 自：福島県伊達郡梁川町字西土橋 至：福島県伊達郡梁川町大字八幡		延長 2.8 km
事業概要 国道349号は茨城県水戸市を起点とし、宮城県柴田郡柴田町に至る延長約256kmの主要な幹線道路であり、広域的な連携・交流を促す重要な路線である。梁川バイパスは、梁川町内の交通混雑の緩和を図り、バス路線の運行の円滑化を支援することを目的とした、延長2.8kmの2車線道路である。		
S60年度事業化	H59年度都市計画決定 (H年度変更)	S61年度用地着手
H1年度工事着手		
全体事業費 約54億円		事業進捗率 39%
計画交通量 4,830台/日		供用済延長 0.9km
費用対効果分析結果 B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 2.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 26 / 59億円 事業費：24 / 56億円 維持管理費：2 / 3億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 57 / 95億円 走行時間短縮便益：50 / 85億円 走行費用減少便益：5 / 8億円 交通事故減少便益：2 / 3億円
基準年 平成16年		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（梁川町内の公共交通機関の走行空間が改善される） ・他のプロジェクトとの関係（主要工業団地（梁川工業団地）へのアクセスが強化される）他1項目に該当関係する地方公共団体等の意見		
国道349号は、地域交流の促進に重要な役割を果たすことが期待されており、根本匠衆議院議員をはじめとする5市16町3村の首長からなる国道349号建設促進期成同盟会より早期整備の要望（平成16年8月3日）を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 緊急輸送道路第二次確保路線（平成9年度）に位置付けられ、より一層重要性が増している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 これまでに、用地買収が87%進捗し、起点側の延長1.4kmを供用している。残る延長1.4kmについては買収を実施している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成19年度には用地買収は終了する予定であり、広瀬大橋及び前後区間の改良促進し、平成23年の全線供用予定である。		
施設の構造や工法の変更等 耐候性鋼材を橋梁に採用し、ライフサイクルコストの縮減を図る。		
対応方針 継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。